

「創英の未来」を語る

30周年記念号として、各号で組んでまいりました特集も今号でラストとなります。
最後の特集テーマは「未来」です。過去・現在と築き上げてきた創英という形を受け継ぎ、さらにパワー
アップするであろう未来に立つ弁理士たちの意気込みをお聞きください！



氏名／所属分野
(創英歴)
《質問項目》

★ 10年後の40周年に向けた、
決意・目標など。

Q1: 決意・目標の具体的な内容

Q2: 仕事において「創英の強み」を
感じた瞬間

Q3: 所長・長谷川の第一印象



永岡 慶 [商標]
(創英歴: 4年10ヶ月)
商標部門を更に盛り
上げていきたい！

A1: 10年後には、商標部門が2倍・3
倍の規模になることを目指しながら、
現部門の風通しの良さを残し、あ
らゆる案件に柔軟に対応できるよ
うなチームへ引っ張っていきたい。

A2: 分野を超えて、気軽に相談・議論
できる制度が整っており、チームと
しての力を感じる。また、同
世代が多いため、常に多くの刺激
を受けられる環境にあること。

A3: 貫禄があり余っていました(面接
中)



岡崎大志 [機電系]
(創英歴: 4年8ヶ月)
安心感のあるプロに
なる

A1: 「とりあえずこの人に頼めば大
丈夫」という安心感をお客様に与
えることができ、なおかつその期
待に応え続けることで「さすが！」
と言われるプロになりたいと思
います。

A2: やはり「人」だと思います。創
英には各分野において信頼かつ尊
敬できる仲間がたくさんいます。彼
らから仕事上の的確な助言をもら
う度に「創英の強み」を感じます。

A3: とにかくエネルギーが湧いてくる
のを隠しきれない人



小貫正嗣 [情報システム
プロデューサー]
(創英歴: 11年8ヶ月)
変え続ける。

A1: 創英の強みの1つが IT です。
私が入所してから10年で、事
務処理を中心に実に多くのことが
変わりました。40周年、次元のち
がう創英をめざして、信頼できる
メンバーとともに変え続けていき
ます。

A2: ①変化が大好き。②誰でも意見
がもらえる。③良いものは良いとい
い、悪いものを良いとはいわない。

A3: ものすごく、お酒が好きそう



小飛山悟史 [機電系]
(創英歴: 9年8ヶ月)
早期処理・高品質・高効率
を実現する環境構築！

A1: 年を重ねても生産性を高められ
爆発力のある若手は多大な成果を
出せるサポート環境を目指し、担
当者と事務の単純作業時間を短縮
して創英の付加価値創造に力を割
ける環境構築に貢献する。

A2: 問題が発生した際に、直ぐに原因
を調査し対策を検討・実行して、当
中に人の能力に頼らないシステム面
で対策済みのご報告をお客様に行
えたとき。

A3: 入所面接では全く興味を持た
れていなかった。(最初、少し酔っ
ついているのかと思いました)



松澤寿昭 [機電系]
(創英歴: 5年2ヶ月)
お客様の心をぐっと
掴む！

A1: お客様が創英との接点におい
て心地よさを常に感じてもらえる
よう、書類の完成度のみならず、お
客様との心の繋がりを大切に
していきたい。

A2: 「全員の英知を業務に反映させ
るべし」との所訓のもと、所員が
一丸となって最適解を模索でき
るところ。

A3: 豪放磊落。自由奔放。型破り。



近藤絵美 [化学系]
(創英歴: 4年6ヶ月)
日々、信頼を積み重ね
ていく！

A1: 信頼の構築はにわかにはでき
るのではないでしょう。長きにわた
ってお客様のお役に立てるように、
日々、丁寧な仕事を心がけてい
きたいと思えます。

A2: 所内業務の効率化やミスを防ぐ
ためなどの様々な機能を持った
オリジナルシステムが次々とリ
リースされ、かつ日々改善され
続けているため、毎日のように
システム部門の強みを感じます。

A3: 背が高い



佐々木善紀 [化学系]
(創英歴: 4年9ヶ月)
在外代理人との関係
をより強固にする

A1: 在外代理人との関係をより深
化させ、海外案件においても、お
客様に、場面に応じた最適な提
案ができるようにしたい。

A2: お客様、各国の代理人との密
に連携を取ることで、難解な
案件に対しても権利化の道を見
出すことができた際に、「創英の
強み」を実感した。

A3: 初対面とは思えない距離感



崎山翔一 [機電系]
(創英歴: 10ヶ月)
向上心を持ち続ける

A1: 10年後にどのような人間にな
っているかは見当が付きません。
しかし、一年後よりも二年後、二
年後よりも三年後、着実に進歩
し、いつまでも成長できる人間
でありたいと思えます。

A2: 所内の会話では、「〇〇さんは
ここが凄いな」という話が頻
りに出てきます。そして、「〇〇
」に入る人は一定ではありません。
個々が所内の人間を敬い、個
人で解決できない問題は組織
で解決するといった創英マインド
が、全所員に刻み込まれている
ように感じます。

A3: 話し相手をよく観察する人



水木佐綾子 [化学系]
(創英歴: 8ヶ月)
お客様の心に残る仕事
をする

A1: お客様が求めるものを提供
することはもちろん、お客様の期
待以上の仕事を行い、感動を感じ
て頂きたいです。そのために、
日々の努力を怠らないよう頑
張ってまいります。

A2: 素晴らしいスキルを持った方
々が集まっていることに加え、
対応が難しい時には進んでチ
ームを組んで問題を解決して
おり、個人の力とチームワーク
のバランスが良いと思えます。

A3: 大きな事務所の所長なのに、
とっても気さく



中塚 岳 [化学系]
(創英歴: 4年4ヶ月)
お客様のあらゆるご要望に
応えられる実をつける！

A1: 内容を問わずこの人に任せ
ておけば間違いないと思ってい
ただけのような存在になりたい。

A2: 疑問に思ったことの答えが所
内に必ずある。

A3: エネルギーが豊富！



内藤泰史 [機電系]
(創英歴: 4年11ヶ月)
お客様のことを第一に
考える弁理士になる！

A1: 常にお客様の立場で考え、お
客様に「+α」の提案が出来る
ようにしたい。

A2: 周りの所員に相談しやすい雰
囲気、協力的な雰囲気がある。

A3: パワフルな人だなー



寺下雄介 [弁護士]
(創英歴: 2年11ヶ月)
気軽かつ最高品質の
知財法務を提供する。

A1: お客様がちょっと迷ったとき
に、いつでも気軽に質問できる
馴染みやすい弁護士になる。裁
判、ライセンス交渉を中心に、
最高の知財法務サービスを提供
する。

A2: 法律専門家の弁護士と各技
術分野の弁理士が本気で意見
をぶつけ合って、サービスの品
質をどんどん高めていけるこ
と。

A3: 大柄の明るい人



秋元達也 [機電系]
(創英歴: 3年3ヶ月)
お客様のニーズに合った
提案力を身に付ける

A1: 今後もお客様に創英を選び
続けて頂けるように、「創英に
依頼して得たよ」と言って頂
けるような付加価値のある
仕事をしたと思っています。

A2: 部門間やベテラン・新人間
の垣根が低いことで、必要
な情報を容易に入手するこ
とができるようになったとき。

A3: ごまかしは通用しなそう…



秋枝真実 [機電系]
(創英歴: 1年8ヶ月)
ピカピカの好奇心で
取り組む

A1: お客様の意向・発明のポ
イント・技術の背景等、情報
の引き出し上手になりたい
です。代理人としてのスキル
を先輩方から貪欲に吸収
していきたいです。

A2: 「こんな人、他にはいない」
「この人の存在は創英の自慢」
と感じる人がたくさんいるこ
と。

A3: 明るくて、話していて
こちらの気持ちまで明るく
する人



望月祐子 [化学系]
(創英歴: 2年1ヶ月)
知財のプロフェッショ
ナルになる

A1: 知財のプロフェッショナル
としての知識、能力を備え、
お客様のご要望に適切に
応えられるような存在にな
れたらと思います。

A2: すぐ相談できて頼りになる
人がいる。

A3: 緊張していたのでよく覚
えていません(採用の最終
面接でした)。



木津正晴 [機電系]
(創英歴: 2年9ヶ月)
一流の弁理士になる

A1: ベストなサービスを安定
して提供でき、お客様の期
待にいつも応えられる一
流の弁理士を目指して
励みたいと思います。

A2: 瞬間ではないですが、
教育体制が整っている点。
若手にも多くのチャン
ス機会が与えられ、かつ
指導者が的確にフォロー
してくれるので、常に
成長することができる。

A3: いつも予想外のことを
仰る人



柳 康樹 [機電系]
(創英歴: 11年3ヶ月)
よりお客様のニーズに
応えられるよう励みます！

A1: これからの時代はお客様の
ニーズが多様化して参ります
ので、それに応えられる
弁理士になりたいと思
います。

A2: お客様のご要望に
応えたいという共通
目標を持ち、状況に
合わせて各所員に協
力して対応頂いた時
です。

A3: ユーモラスな方である
と思いました。

原点発、未来へ

2016年は来るべき創業40周年に向かう 10年間の歩みのスタート台

長谷川 芳樹

「創英」は私が独立開業した1986年2月1日を創業日としていますが、事務所としての基本ポリシーが誕生して成文化されたのは1987年7月から12月にかけての半年間であり、これが現在に至るまで引き継がれて就業規則（第1条の2「行動規範」、2014年の改訂で追加）に明記されています。ホームページ（<http://www.soeci.com/>）で「HOME」事務所紹介「創英のDNA」を参照していただくと、「理念」、「心得」および「仕事の進め方」の3項目が表記されていますが、この「心得」四箇条と「仕事の進め方」四箇条が1988年1月に制定された創英の基本ポリシー（4+4=8箇条就業規則第1条の2）です。

「心得」の4箇条目は、『創英の理念を座右の銘とし、全員の英知を業務に反映させるべし』となっていますが、この「創英の理念」は創業20周年となった2006年に、下記の通り成文化されています。

『私たちは、発明・創作やブランドが知的財産権として過不足なく保護され、かつ、経済活動の自由を阻害するような知的財産権の濫用も許さない社会の実現をめざします。そして、お客様に「さすが!」と言わせたいという思いを大切に、私たちの専門力・人間力・連携力を日々進化させていきます。』

創業20周年の際には、我が創英の“将来像にマッチした呼称”を所内公募した結果、事務所を「知財の匠集団」と称し、働くメンバーを「知財の匠」と称することが決まりました（商標登録済）。その後、創英が名実ともに「知財の匠集団」となるための経営者の責務と役割は何か、創英メンバーは「知財の匠」となるために何を為すべきか、等が検討され、これらは2014年に改訂された就業規則前文に明記されました。

すなわち、

- 創英の経営者は『所員等が働きやすく、チーム力を発揮しやすく、かつ、成果を挙げやすい環境を整備するように努め、また、その成果と貢献を衡平に評価し、その評価に応じて報酬を与えるように努力し、業務上の能力とスキルを高める環境を提供することに努める』
- 創英の所員等は『よく働き、個人としてもチームとしても成果を挙げて、当所の業績アップと発展に貢献するように努めるとともに、業務上の能力とスキルを高めるために、たゆまぬ研鑽努力をすることが求められています。』

創英の将来像と経営者や所員の責務等を就業規則で規定したわけですが、公式文書で明文化したこと自体に大きな意義があります。また、2015年には一般財団法人創英IPラボ（<http://www.soeci.com/soeiplabo/>）を設立し、メンバーの能力開発とスキルアップをアシストする仕組みを整備しましたが、これ自体にも大きな意義があります。経営者や所員が自身の責務等を成し遂げる過程では、必ず困難や誘惑が付きまといりますが、公式文書で明示されてアシストする仕組みまで整備されていれば“初志”が忘れ去られることもなく、創英の将来像が実現される確率は高まるはずで

創業30周年は、来るべき創業40周年に向かうこれからの10年間の歩みのスタート台です。環境の変化と時代の流れを見据えて、創英メンバーが日々切磋琢磨していくことが、2026年までに「知財の匠集団」創英を実現し、お客様には「さすが!」と言っていただくための王道であると考えています。



※所長室にて、心得第1箇条目「物事の本質を見極め、原理と原則に忠実であるべし」と。

創英 写真館

所員旅行 in 2016

～今年は金沢をメインに創英一同が北陸へ行って参りました!～



着物女子勢揃い



男7人紅葉の下でパチリ



恐竜博士と一緒に…



兼六園で、ハイチーズ♪



金箔アイスの味はいかが？



宴会の締めは全員で集合写真!